

日本 DMORT ニュース第 3 号(2019 年 4 月)

【目次】

1. 愛知県警察との協定締結について
2. DMORT 養成研修会の報告
 - 1) 新潟 DMORT 養成研修会
 - 2) 第 22 回 DMORT 養成研修会 IN 愛知
3. 訓練参加報告
 - 1) 大阪国際空港（伊丹空港）訓練
 - 2) 兵庫県警訓練
 - 3) 愛知県国民保護共同実働訓練
4. 学会発表報告
5. 事務局からのお知らせ

#####

1. 愛知県警察との協定締結について

（理事長：吉永和正）

2019 年 2 月 21 日（木）13:00 より愛知県警察本部において「事件等発生時における連携及び協力に関する協定」の締結式が開催され、多数のマスメディアが参加する中、愛知県警察加藤本部長と理事長吉永の間で調印が行われた。日本 DMORT としては兵庫県に次いで 2 県目の協定である。

愛知県においては、数年前より中部国際空港訓練に DMORT が参加する時に愛知県警察被害者支援室の担当者と連携を深めてきた。2017 年の日本 DMORT の法人化を契機に、日本 DMORT が愛知県被害者支援連絡協議会のオブザーバー参加が認められた。愛知支部メンバーがこの会に参加する中で、協議会の組織変革を検討する過程で DMORT をコアチームに位置づけることが決定された。2018 年 4 月には日本 DMORT が協議会の正規会員として承認された。

2019 年 1 月 11 日に豊田市で実施された「愛知県国民保護共同実働訓練」に日本 DMORT も参加したが、訓練終了後に愛知県警本部で出原警務部長と面談の機会を得た。部長は上記協議会の副会長でもあり、DMORT のよき理解者であった。日本 DMORT の唯一の支部がある愛知が次の協定先であることは自然のなりゆきであった。この日は、積極的に協定に向けて動くということで面談を終えたが、その後この話は急速に進展して 2 月 21 日の調印が実現した。

協定内容の基本は兵庫県と同じであるが、新たに加わった項目がある。「乙（日本 DMORT）は、愛知県の近隣において事件等が発生した場合で、当該事件等の発生地において円滑な活動を行う必要があるときは、甲（愛知県警本部）に対して発生地を管轄する警察本部と

の調整の依頼を行うことができる。この場合において、甲は当該警察本部との調整を図るものとする。」という条文である。これにより愛知県のみならず周辺県での災害発生時にも愛知県警の協力が得られることが明文化されたものであり、一歩前進と言える。



2. DMORT 養成研修会の報告

「DMORT 養成研修会」は、日本 DMORT 研究会の時代、2010 年 9 月に第 1 回が開催されてから、2016 年 3 月までの 5 年半で計 21 回開催され、600 名以上の受講者を出しておりました。が、法人化の準備など種々の事情で長らく開催が中断し、研修会開催を望む声は各所からあがっていました。そのうちの一人が新潟大学の佐藤栄一先生で、先生の熱い思いに応えるため、法人化して初めての研修会が新潟大学との共催で 2 年 9 ヶ月ぶりに行われることになりました。さらに「愛知県支部」でも法人主催として「第 22 回研修会」が開催されることになりました。

(副理事長：村上典子)

1) DMORT 養成研修会 IN 新潟 開催報告

(新潟大学医学部災害医療教育センター：佐藤栄一)

昨年の平成 30 年 12 月 2 日（日）、新潟大学旭町キャンパス内の新潟医療人育成センターを会場に、一般社団法人日本 DMORT 主催、新潟大学医学部災害医療教育センター共催のもと、「DMORT 養成研修会 IN 新潟」を開催しました。一般社団法人日本 DMORT 設立後、初めて開催される研修会でした。災害の全時相において分野横断的な災害医療教育による

高度医療人材の育成をテーマとする当センターにとって、この研修会を新潟で開催することは実は 2015 年からの悲願でした。

今回の研修には、1 都 9 県から、医師、歯科医師、看護師、コメディカルスタッフ、消防関係者、海上保安官など、34 名の多職種の方々に受講いただきました。吉永和正先生や村上典子先生らをはじめとする講師の先生方の進める講義やロールプレイに、受講者はみなそろって真剣に取り組まれていたのが大変印象的でした。

受講後のアンケート調査では、全体として約 94%の方が研修の内容について「十分理解した」あるいは「理解した」と回答されました。また、アンケートには「考えさせられることが多かった。もっと勉強したい。」「現場でもすぐに役立てられる内容ばかりだった。」といったコメントが寄せられました。これらの結果が示すように今回の研修会は大成功でした。その理由は、4 名の講師の先生の秀逸な講義と 2 名のタスクフォースの方々のサポートのお陰です。この場をお借りして、改めて御礼を申し上げます。

実を申しますと、この研修の受講希望者は 70 名近くにのぼりました。その関心の高さに驚く一方で、学びを望む多くの方々に受講いただけない結果は、大変残念でした。そのため、当センターでは、講師の先生方のご協力のもと、今年 5 月 19 日（日）に第 2 回目の DMORT 養成研修会 IN 新潟を開催する予定です。より充実した研修とするべく尽力いたしますので、引き続きのご理解、ご支援をお願いします。



2) 第22回日本DMORT研修会 IN 愛知 開催報告

(愛知県支部 名古屋掖済会病院 救命救急センター：稲波泰介)

冬の厳しい寒さが残る2月10日、約5年ぶりとなる愛知県での開催が当院で初めて開催されました。今回は法人化されてからの記念すべき研修会で、12月の新潟大学での研修会に次ぎ、本部と連携し総勢14名のスタッフの協力のもと、35名の受講生は皆欠席することなく無事に研修を終えることができました。また今回は、昨年の愛知県支部の立ち上げ以降初の研修会であり、絶対に成功させたいという強い思いがありました。

研修会開催にあたり、事前準備を入念に臨み、当日を迎えました。初開催ということもあり物品や流れの確認が足りず不備もありましたが、コース開催後に皆で集合写真を撮り、受講生全員が修了し「研修会成功」の声を聞いた時には嬉しくて涙が出そうになりました。

スタッフからも「打合せが十分にできて、最後には新たな試みもできて良かった」「また名古屋でもやろう」というお言葉をいただきました。また受講生からも「とても勉強になった」「災害時に何か力になれるような武器が身についた」「自分のケアに自身が持てる」等のプラス意見も多々あり、研修会が無事に開催できて本当に良かったと思いました。

今回受講生もですが、スタッフも参加希望が多く、どうしてもお断りせざるを得ない状況でした。次回は参加できなかったスタッフも交えて、愛知支部のスタッフを中心に今後もより力を合わせて継続的な開催を目指したいと思います。

開催にあたり、支えてくださった吉永先生、村上先生はじめスタッフの皆様へ感謝をいたします。ありがとうございました。今後もしご指導宜しくお願い致します。



3. 訓練参加報告

1) 2018 年度 大阪国際空港航空機事故対策総合訓練

(理事長：吉永和正)

日時：2018 年 11 月 15 日（木）13:45～15:45

場所：大阪国際空港（伊丹空港） 第 7 エプロン

事故設定：空港に着陸後、滑走路中央部付近で墜座、第 2 エンジンより出火炎上。乗員・乗客に多数の負傷者が発生した。

被災者想定：1 例目は帰省先から帰ってきた母と 10 歳の娘が事故に遭遇、娘の死亡を受け入れられない母親と事故を知り空港に来た父親に対する支援。2 例目は仲の良い姉妹が事故に遭遇、妹が死亡した。自分だけが助かり、自責の念を抱く姉と空港へ来た母親に対する支援。いずれも体表損傷は軽微であるが、肝挫滅、心破裂による死亡。

DMORT からの参加者は医師（吉永）、看護師（河野）、調整員（浅田）の予定であったが、見学の申込みがあった 7 名の中に DMORT 養成研修会受講済みの看護師 2 名が含まれていたため、この二人にはチームメンバーとして加わってもらった。看護学校の学生が家族役を担当したが、遺体役も学生が受け持った。

14:00 に発災して訓練が始まり、14:30 頃に黒エリアに現場タグを付けた遺体役の学生が運ばれてきた。ここで医師会の医師が死亡確認を行い、テントで設営された遺体安置所へ搬送され、その後を DMORT が対応した。

訓練を終えていくつかの課題が残された。遺体安置所テントが救助救出現場に近く、かなりの騒音であった。悲嘆にくれた家族は小さな声で話すのは当然であり、会話が十分に聞き取れない中での進行となった。実際の遺体安置所は通常遮蔽された空間になるので環境設定は見直しが必要であろう。

学生の演技にかなりの温度差が見られた。事前の訓練、調整をどのようにするかも今後の課題として残された。ただ、遺体役の学生からは家族が来たときにほっとした、手を握ってもらって安心感ができた、などの意見があり、教育効果はあったと考えられる。

最期の全体講評の中で、今回の訓練の特徴として死亡者家族対応、DMORT を導入したことが最初に報告された。DMORT が空港関係者の注目を集めていることは確認できたので、伊丹空港での訓練も今後は継続的参加を考えたい。



2) 平成 30 年度 兵庫県警察総合災害警備訓練

(元・兵庫医大／現・徳島大学法医学教室：主田英之)

1 月 9 日(水)「平成 30 年度 兵庫県警察総合災害警備訓練(兵庫県広域防災センター)」の災害死亡者遺族支援訓練に日本 DMORT として参加してきました。参加者は、長崎先生、大庭さん、浅田さん、鈴木先生、宮田さん、幾島さんと主田です。長崎先生は、検視・検案ブースで検案医師としての参加でした。

シナリオは、震度 7 の地震による倒壊家屋から心肺停止で搬送された女性(母親)と女兒(3 歳)の検案後、安置所での受付、確認と引き渡しの場面です。視察班は、2 つ有り、1 回目は母親(A 班)、2 回目は女兒(B 班)での実施となりました。視察班は、訓練展示の直前ブリーフィング(20 分)で、あらかじめ訓練内容の説明を受けており、その中で日本 DMORT についても紹介されていました。このブリーフィングには、訓練参加者は入る事はできなかったため、リーフレットの配布をお願いしました。主田は、訓練展示の冒頭に短く説明を行うことになっておりましたので、簡単なシナリオと、場面の説明のみを行いました。

訓練では、初参加の3名、鈴木先生、宮田さん、幾島さんにDMORT役をお願いしました。宮田さんにA/B班、鈴木先生A班、幾島さんB班をお願いし、大庭さんには、準備段階から警察との調整等、浅田さんにはビデオ／写真など記録を担当して頂きました。家族役は昨年と同様、警察官をお願いしました。受付／案内役の警察官初め、参加者に全体の流れをイメージしてもらうために昨年の訓練の様子を放送したニュース映像を見てもらいました。訓練の実際としましては、家族役の怒りや乖離の迫真の演技に対し気持ちを揺さぶられながらも、気持ちを抑え懸命にDMORTの役割を果たしてくださいました。ご家族の気持ちをしっかり受け止め、「どうして？なぜ？どうなって？病院へは？」の矢継ぎ早の質問にも出来る限り対応し、ご家族に寄り添い、DMORTの重要性を十分にアピールしつつ、2回の視察に訓練展示を行うことができました。

訓練展示冒頭の説明は、時間が余りとれないので「極簡単に」とあらかじめ指示されていたので、簡単に行いました。訓練の時間が限られる中、説明よりも実際にみて頂く時間をとれるようにとの意図でしたが、簡単すぎて説明が不十分で物足りなかった様に思え、もう少し説明をまとめて効果的な内容を検討すべきと反省しております。初参加の皆様は既にマニュアルやシナリオを確認し臨んでおられましたが、不安も大きく。訓練前に昨年度の動画でイメージトレーニングをして頂くことで、待ち時間の間にシミュレーションを行い都度、疑問点を解決していきました。その際、警察役の方が「遺族」という言葉が使われた時、すぐに昨年家族役を担われた警察官が「人定もしていないのに遺族ではない。家族。言葉に気をつけて」と指導されていたことから意識の高さを感じました。

訓練後にデブリーディングを行っていますが、検案書を目にする機会も少なく説明する際に戸惑われたとの御意見を頂いております。検案書の説明については、検案医でないものが医学的な説明を行う事について、現場で混乱しないように分かりやすいガイドラインが必要かも知れません。また、昨年は1例のシナリオで行いましたが、今回は2例でしたので警察の方も家族役や警察役を交互に実施されていました。視察の為に動きの確認等も必要でしたので、十分な休憩をとる時間的余裕がなく気持ちの切り替えも難しかったのではないかと考えます。それと、準備すべき備品等訓練時に必要な物品はリスト化する事で、今後役に立つのではと感じました。

以上、大庭さんの報告に主田が追加等脚色を加え、報告とさせていただきます。

3) 愛知県国民保護共同実働訓練

(愛知県支部 名古屋掖済会病院 救命救急センター：伊藤美和)

平成31年1月11日に愛知県国民保護共同実働訓練に参加しました。吉永理事長と河野さんもお越しくださり、非常に心強かったのを覚えています。訓練概要は、豊田スタジアムの観客席に仕掛けられた爆発物による多数傷病者の発生を想定した訓練でした。私たちは、豊田市民文化会館の会議室内で、DMORTとして遺体と家族との面会場面や、警察から家

族への今後の支援に関する説明時に寄り添うといった遺族支援の訓練を行いました。

まず初めに警察が家族へ自己紹介・挨拶を行うのですが、続いて警察から DMORT の紹介をしていただくような流れは、今年度 11 月に新舞子で行われた中部管区広域緊急援助隊合同訓練の際に決まり、定着したと感じました。これにより、DMORT は、家族支援の導入が自然な形で行えるようになると思います。そして、警察から家族への説明の場面に初めて立ち会い、一度に多くのことが説明されることを知り、私自身も全て理解して記憶しておくことは難しいと感じました。

訓練終了後には、警察・県職員・DMORT と合同で振り返りを行い、建設的な意見交換が行われました。衝撃を受けている家族は、多くの説明を全て理解することは難しいのではないかという議論になりました。そこで、家族が落ち着いた時に説明されたことを確認することができるように、支援に関する説明項目をリスト化する案も出されました。これにより、家族が再度説明を求めるという行動に繋げることができると共有できました。このように警察・県警職員と訓練の振り返りを積み重ねていくことで、より良い連携のあり方を毎回発見できています。

さらに、訓練終了後には、愛知県県警本部で警務部長とお話をする機会をいただき、吉永先生・北川先生・河野さん・稲波さん・伊藤が訪室しました。この機会によって、2 月の愛知県警・日本 DMORT との協定締結へ加速したと思います。

訓練参加メンバー：吉永先生・北川先生・河野さん・稲波さん・伊藤・野村さんと見学者数名

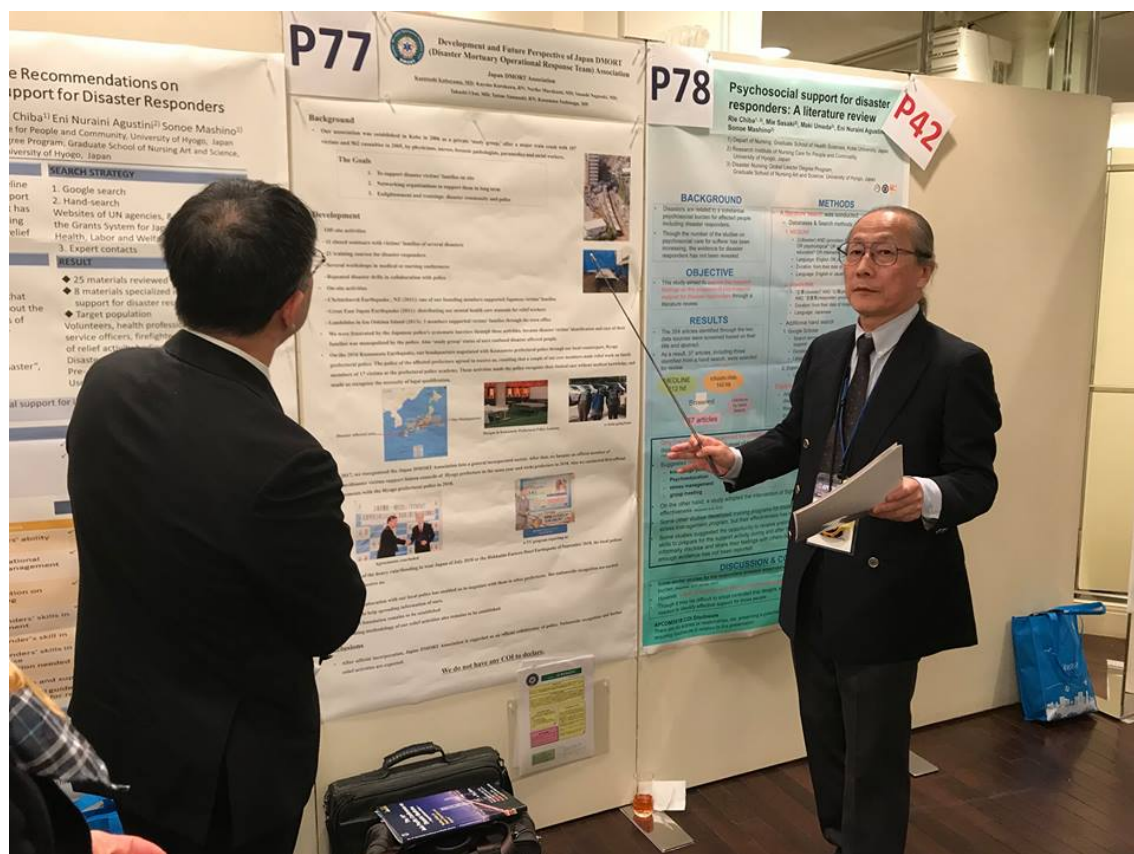


4. 学会発表報告

【第14回アジア太平洋災害医学カンファレンス】

(京都橘大学健康科学部:久保山一敏)

14th Asia Pacific Conference on Disaster Medicine (第14回アジア太平洋災害医学カンファレンス) が2018年10月16日～18日に神戸の舞子ヴィアで開催されました。この学会はアジア太平洋地域の災害医学の研究者、実践者が隔年に集まって開かれているものですが、その第2日目に正会員の久保山がポスター発表を行いました。“Development and Future Perspective of Japan DMORT Association”と題し、本団体の今までの歩みと今後の方向性を報告しました。結びとして“After official incorporation, Japan DMORT Association is regarded as an official collaborator of police. Nationwide recognition and farther relief activities are expected.”と記し、本団体が公式に認知され始めてきたことを述べ今後への期待を込めました。この発表は”Mental Care/Stress Management”というセッションに含まれていましたが、夕方の口頭でのプレゼンテーションは和気藹々とした雰囲気で行われ、聴衆に好意的に受け止めてもらえたと感じました。地道でも国際学会での発信は、今後も継続していく価値があると感じます。



5. 事務局からのお知らせ

1) 正会員と登録会員について

基本的には入会いただける方は「登録会員」となります。正会員は従来の世話人や、今までに訓練に参加くださったり、研修会のタスクをして下さったり、積極的に運営に関わって下さる意思のある方などで、理事から推薦させていただいております。

3 月末現在での会員状況をお知らせします。理事 8 名、正会員 14 名、登録会員 111 名、賛助会員 3 名（団体）です。

2) 理事名簿

3 月の社員総会で、久保山一敏、北川喜己、河野智子の 3 人の理事が承認されました。

理 事 長：吉永和正（協和マリナホスピタル院長）

副理事長：村上典子（神戸赤十字病院心療内科部長）

理 事：

長崎 靖（兵庫県監察医務室）

山崎達枝（長岡崇徳大学看護学部看護学科准教授）

黒川雅代子（龍谷大学短期大学部教授）

久保山一敏（京都橘大学健康科学部教授）

北川喜己（名古屋掖済会病院副院長）

河野智子（京都第一赤十字病院看護部）

監 事：鵜飼卓（兵庫県災害医療センター顧問）

【事務局所在地】

〒662-0934 兵庫県西宮市西宮浜 4-15-1 協和マリナホスピタル内

電話：0798-32-1112（代） F A X：0798-32-1222

<http://dmort.jp>

E-mail：information@dmort.jp

<編集後記>

大変お待たせいたしました。今回は研修会 2 回分と訓練、学会など、盛りだくさんの内容となりました。兵庫県警に続き、愛知県警とも協定を締結することができ、身のひきしまる思いです。また、米子での災害医学会でもブース出展させていただき、当法人の存在をアピールしたのですが、その際最も多い問い合わせは「研修会は今度はいつ開催されるのか？」でした。5 月の新潟研修会はもう締め切りとなりましたが、今後 9 月 22 日（日）に東京、12 月に京都での開催が予定されております。前回も書きましたが、研修会は非会員でも受講できますが、会員の方が受講費も安くなり、応募者多数の場合は優先的に受講いただけます！是非周囲の方にも入会をお勧めいただきたく、引き続き、会員の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

（編集担当：村上典子）